

川崎市川崎区殿町地区におけるセミ科（昆虫綱：半翅目）の記録（2020年度）

堀内慈恵*

Records of the family Cicadidae (Insecta: Hemiptera) in Tonomachi, Kawasaki-ku, Kawasaki City
(Survey for 2020)

Yoshie Horiuchi*

はじめに

川崎市川崎区は、早い年代からの土地利用や人工改変が行き渡っていることから、各群の生物種の生息状況に関する情報は少なく、昆虫綱の半翅（カメムシ）目セミ科 Cicadidae についても例外ではない。これまでも当該地区のセミ科の記録はあるが、特に、成虫が夏期の前半に出現するニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* と、従来は後半から出現していたツクツクボウシ *Meimuna opalifera* については、情報の数量に偏りがあると思われた（堀内ほか, 2020; 池田, 2015; 岩田芳美・セミ調査グループ, 2011; 岩田ほか, 2011; 清水・若宮, 1983; 野牛・大島, 2019)。また、近年に各地で増加傾向にあるクマゼミ *Cryptotympana facialis* についても、本市域各地での動向の把握（モニタリング）や情報蓄積が必要である。筆者は、勤務地が川崎区殿町地区であることに伴い、この地区でのセミ科の観察調査を毎日行える機会を得たことから、2020年度におけるその生息状況を報告する。

調査地の概況

川崎区殿町地区は、北に多摩川下流部が流れており、その河川敷沿いにはソメイヨシノ、オオシマザクラからなる並木がある。西側の住宅街には戸建てやアパートなど低層の住宅が多く、植栽のある広い庭の家屋も散見される。東側は「キングスカイフロント地区」と呼ばれ、かつて自動車工場があった跡地に、研究施設や物流施設等が建ち並ぶ。筆者は通勤に際して、徒歩で京浜急行「小島新田」駅から住宅街を通過し、キングスカイフロント地区へと向かうが、本調査はその過程で行われた。通勤経路の途中にある「殿町第3公園」は、殿町三丁目にある面積7,161m²の公園である。その中は、ソメイヨシノの並木があるエリアと、遊具が設置されマテバシイやキンモクセイ、サザ

ンカなど多様な種の樹木が植栽されているエリアとがある。住宅地の公園には珍しく、舗装されずに露地（土壌面）のまま残されている部分が多いため、定期除草の直前には、広い範囲にわたって雑草が生い茂っているばかりでなく、セミ科（幼虫期）の生息にも適した状態にある。2020年7月は平年より降雨量が多く気温も低い日が続いたが、8月は一転して晴天の日が多く、平均気温はかなり高くなった（横浜地方気象台, 2020)。

鳴き声の観察記録（各種成虫の消長）

2020年において最初に鳴き始めたのはニイニイゼミで、7月22日に初鳴きを確認した。次いで、その後数日のうちにアブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata*、ミンミンゼミ *Hyalessa maculaticollis* の順に鳴き始めた。8月に入ると、アブラゼミの鳴き声はかなり賑やかになり、殿町第3公園においては、どの樹木にも複数個体が静止している状態で、飛び交う個体も多く観察された。ニイニイゼミおよびミンミンゼミの鳴き声も多数聞かれ、やはり樹木に止まっている個体を度々観察することができた。8月4日の朝には、同公園の近くでクマゼミの鳴き声を初めて確認し、その後は、毎朝の通勤時に数ヶ所からの鳴き声が聞かれるようになった。本種は他種とは異なり、かなり高い位置で鳴いていたため、その姿を確認することはできなかった。ツクツクボウシは、8月18日に初鳴きを確認した。以降、ニイニイゼミと入れ替わるようにアブラゼミとツクツクボウシの鳴き声が優勢となった。ツクツクボウシも、樹木に静止する個体を度々観察している。8月末には、ミンミンゼミとクマゼミの鳴き声はほとんど聞かれなくなった。9月7日頃にアブラゼミの鳴き声がわずかとなる中、ツクツクボウシは9月11日まで合唱が確認された。なお、川崎市に生息するセミ科の中でも衰退している種と考えられ

*川崎市環境局

Environmental Protection Bureau, Kawasaki City

るヒグラシ *Tanna japonensis* は、現在の市域における分布東限が幸区南加瀬一丁目の「夢見ヶ崎公園」であろうとされた(堀内ほか, 2020) が、まとまった樹林地の存在しない殿町地区では確認されなかった。

殿町第3公園における脱皮殻調査

殿町第3公園において、8月17日～10月5日の通勤時に脱皮(羽化)殻を採集した。ただし、手の届かない高さにあるものや、植え込みの奥にあるものは採集していない。総個体数は471個で、その内訳はアブラゼミ447個、ミンミンゼミ21個、ツクツクボウシ3個であった(表1)。鳴き声は聞かれたものの、ニイニイゼミおよびクマゼミは発見されなかった。

まとめ

殿町地区におけるセミ科の優占種は、上記の観察記録と脱皮殻調査の結果が示す通り、アブラゼミである。特に、上述の通り、成虫の鳴き声は9月7日には減少がみられたものの、その羽化個体数は、9月4日に至っても減少していない様相が窺える。一方で、今回の調査で脱皮殻が発見できなかったニイニイゼミに加え、その数が少なかったミンミンゼミおよびツクツクボウシも、観察記録(鳴き声の頻度など)から判断する限りにおいては、その個体数は決して少なくはないようであり、その発生状況については追認が必要である。また、確認個体数こそ少ないものの、クマゼミも、毎日鳴き声が聞かれる状況となっており、現時点では稀な種とは言えなくなっている。関西地方において、沼田(2016)は「1960年代の大阪府豊中市では、本種は高い木の上の方にとまっていることが多く滅多に採集できない珍しい種であったが、2009年には低い位置に鈴なりにとまる様子が観察できるほど普通種になった」と大略述べている。殿町地区のクマゼミの現在の出現状況は、1960年代

の豊中市のそれと似ており、今後の動向が注目される。市域での分布が、より樹林の残存する西寄りに偏在しつつあると考えられるヒグラシは、本調査ではまったく確認できなかった。

シーズンを通じた記録により、川崎区殿町地区におけるセミ科の現状や消長について明らかにされる事が、今後の市域における生物多様性情報の蓄積の一助になれば幸いである。引き続き、都市化の進んだ東部地区を含む、川崎市内の生息状況の動態に注視していきたい。

謝辞

本稿の作成にあたり、ご助言をいただいた川島逸郎氏(横須賀市)に記して深謝申し上げます。

引用文献

- 堀内慈恵・原拓希・野牛雪子・川瀬浩史・杉澤和将・高中健一郎・鈴木利康, 2020. 川崎市のセミの記録(2018~2019年). 川崎市青少年科学館紀要, (30): 25-34.
- 池田正人, 2015. 関東地方南部におけるクマゼミの生息状況と分布拡大に関する考察. *Cicada*, 22 (1): 7-18.
- 岩田芳美・セミ調査グループ, 2011. 川崎のセミの鳴き声調査. *In*: 川崎市自然環境調査報告 VII. pp. 157-178, 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団, 川崎.
- 岩田芳美・山本龍彦・木村祐子・長井カヲル, 2011. 川崎市川崎区と麻生区のセミの脱皮殻の比較. *In*: 川崎市自然環境調査報告 VII. pp. 179-182, 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団, 川崎.
- 沼田英治, 2016. クマゼミから温暖化を考える. 9+175 pp., 岩波書店, 東京.
- 清水健一・若宮崇令, 1983. せみのぬけがらの分布. 川崎市青少年科学館年報, (1): 32-35.

表 1. 2020 年度に殿町第3公園で採集されたセミ科脱皮殻の内訳.

	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日	8月27日	8月31日	9月1日	9月4日	10月5日	合計
アブラゼミ	69	64	46	0	67	62	33	35	71	0	447 (94.9%)
ミンミンゼミ	1	3	0	0	1	0	1	4	10	1	21 (4.5%)
ツクツクボウシ	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3 (0.6%)
合計	70	67	46	1	70	62	34	39	81	1	471 (100%)

野牛雪子・大島真規子, 2019. 川崎市内におけるセミのぬけがら調査～中原区のヒグラシと川崎区のクマゼミの記録～. 川崎市青少年科学館紀要, (29): 35-36.

インターネット情報
横浜地方気象台, 2020. 神奈川県気象概況
令和 2 年 8 月号 . https://www.jma-net.go.jp/yokohama/670/670_08.pdf (閲覧日:
2020-December-9)